

会報

東京いいで会

平成18年4月発行
2006
第4号

創立45周年記念号

心につながるふるさと
血につながるふるさと
言葉につながるふるさと

島崎藤村

故郷における講演より〔藤村記念館掲示〕

「東京飯豊会」45周年記念総会を迎えて

東京飯豊会 会長 谷本 亮司（椿出身）

会員の皆様、友好団体の皆様、皆様の暖かいご支援、ご協力を賜り、東京飯豊会は記念すべき45周年を迎える事ができました。昭和37年、池袋温泉にて、現最高顧問の舟山繁太郎氏らの愛郷者達が『ふるさと会』設立に尽力され、諸先輩方々の努力で本会の基礎を築いてこられました。志、半ばでこの世を去られた方々には謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

私達役員をはじめ、会員の皆さん当会の伝統を継続し、飯豊町出身者として誇りに思える『東京飯豊会』を今後50年・60年を目指し次世代に伝え、残して行きましょう。

今回の45回記念総会のイベントにおいては齊藤町長始め、商工観光課・氏子総代・獅子連の方々のご協力により椿地区「涌沼神社」の"獅子舞"を披露して下さいます。幼い頃より見て来た、ふる里の祭礼行事"獅子舞"を思い出して頂きたいと存じます。最後になりましたが、会員並びにご家族の皆様のご健康と御多幸をお祈りし、挨拶に代えさせていただきます。

ふるさとだより

主な施策の概要及び成果

【環境】

環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得するとともに、環境省の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」の指定を受け、「環境フォーラムいいで」などの多様な啓発活動を実施しました。二酸化炭素抑制対策として、第二小学校など公共施設や個人住宅にペレットストーブを導入するとともに、民間の資本で「飯豊型環境共生モデル住宅」の建設をスタートしました。

【老人福祉関係】

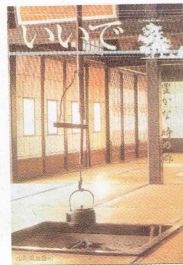
介護老人保健施設整備事業に着手し、用地取得、実施設計などを行いました。

【農林関係】

「椿農村公園（飯豊公園）」の整備を完了し、また、中部地区農村活性化センターの供用を開始しました。

【観光振興】

観光パンフレットを改訂するなど、PRの充実を図りました。



【道路関係】

県道関係で、主要地方道米沢飯豊線手ノ子バイパスが完了し、町道関係では、町道飯豊川西線改良事業（飯豊橋関連）などを実施しました。例年になく大雪に見舞われましたが、除雪機械をフル稼働し、交通の確保に努めました。

【学校教育関係】

全学校二学期制を導入するとともに、「学美人（まなびびと）育成事業」や環境ISOの手法を取り入れた「めざみっ子環境ISO」の取り組みなど、特色ある教育活動を展開しました。

【教育環境の整備】

町内の木材を使用した西置賜では初のエゴスクールとして第二小学校校舎改築事業を実施しました。



お祝いのご挨拶



東京飯豊会の皆様
飯豊会設立45周年
記念誠におめでとうございます。町民ともども心よりお祝いを申し上げます。また、日頃より会員の皆様には、本町の各種事業にご協力を賜りますとともに、「広報いいで」への情報提供など町政各般にわたりご理解を頂いておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、東京飯豊会は、故郷を見守って頂ながら45年にも及ぶ長い歴史を重ねられました。近年では、平成13年の「東京飯豊里帰りツアー」により60名の皆様方が故郷にお出で頂きましたし、15年には会報を創刊なされ、会員皆様により多くの情報を発信頂くなど、年々充実した活動を展開なされておられますことに心より敬意を表します。

昨今の本町は、15年リニューアルオープンした「どんでん平ゆり園」には全国各地からお客様の来園を頂き、更に昨年からは提供始めました「どぶろく」も県内外に話題を振りまいたところでは、

また、町の重要事業であります「介護老人保健施設・診療所・総合保健施設」が「保健・福祉・医療」の一体的複合施設として、今年度完成予定であります。今後とも、故郷を遠く離れ頑張っておられる「飯豊会」の皆さんが、誇りに思える故郷づくりを進めて参りたいと思えます。最後に「東京飯豊会」の益々のご発展と、会員皆様のご健勝ご多幸をご祈念申し上げお祝いのご挨拶といたします。

飯豊町長

斎藤 正三郎

■ 45周年記念会報に寄せて

飯豊町議会議長 五十嵐 文雄

「東京飯豊会」が結成されて45周年を迎えると伺い、心よりお慶び申し上げますとともに、歴代の会長さんを中心とした活発な会活動とふるさと・飯豊との絆を確かなものとされている日頃のご尽力に対し、議会を代表し衷心より敬意と感謝を申し上げます。また、毎年総会に議会側からもお招きいただき、交流が図られておりますことこの場を借りてお礼を申し上げます。

一口に45周年と申しますが、半世紀近い長きに亘るわけですからこれを支えてくださった役員の方々と会員の方々のご努力は計り知れないものがあるかと思えます。まさに昭和の激動を首都圏で過ごされ、戦後のめざましい発展に寄与された方々が多くおられる中で右も左も見ず知らずの人ばかり、さぞ心さびしい日もあったのではないかと思います。ある役員の方は、「都会とはそういうもの。だから心細さを感じている人に一人でも多く集まっていただき、温もりのひと時と仲間が多くいることを実感して欲しい」と話されておりました。まさに東京飯豊会の組織の意義がここにあり、さらなる発展に期待を申し上げる一人であります。

さて、平成17年度は5年に一度の国勢調査の

年でありました。その結果、飯豊町は前回より581人少ない8,623人でありました。少子化高齢化の波は否が応でも押し寄せている中で、三位一体の改革が進められ、地方行政を取り巻く環境は極めて厳しい状況下に置かれておりますが、飯豊の将来像はどうあるべきかを真摯にとらえ、創意と工夫でこの難関を乗り越えて参りたいと思っております。今、団塊の世代が定年期を迎えており、故郷への回帰現象が起きつつあると伺いました。

経済の第一線から身を引き、人間らしい生き方を第二の人生として求めているのだそうで、そういった意味では道路整備、あるいは雪対策と言った生活環境の整備に意を注ぐ一方、開発秩序を守り自然を大切にしてきた飯豊町は他に類のないほど安全で安心して暮らせる地域であると自負しております。願わくばぜひ安住の地として皆様はもちろんのこと、都会のみなさまにご紹介いただければ最高であります。結びに、故郷を思う気持ちと故郷を想う心で一つになり、会員の皆様がますますご活躍されますことをお祈りし今後も変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申しあげて、お祝いの言葉といたします。

■ 45周年に寄せて

山形県議会議員 小池 克敏

「東京飯豊会結成45周年」誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げますと共に、これまで会の運営にご尽力されてこられた方々に、心からの敬意と感謝を申し上げます。実は、私も一時期東京で暮らしたことがあります。あの頃の東京は遥か異郷の地で、誰しものがそうであったように、年に2度ほどの帰省や故郷を同じくする人との交流が、何よりも楽しみだったことが懐かしく思い出されます。毎年東京飯豊会総会に、町の特産品を持ち込んでの展示即売や、里帰りツアーで帰郷する皆さんをお迎えする準備に汗を流したとき。特に、総会会場で披露される故郷の勇壮な獅子舞いと祭囃子に、こみ上げてくるものを禁

じ得なかったときは、東京で暮らしていたときの自分にタイムスリップしていたのかもしれない。望郷の思いやみがたい皆さんにとって、かけがいのない「故郷会」の、今後ますますのご発展をお祈り申し上げお祝いいたします。



■東京飯豊会の誕生と四十五年を顧みて

舟山 繁太郎 (小白川出身)

雄大な飯豊山を眺め、最上川の源流白川の清流に潤われ緑豊かな恵まれた環境で生まれ育った私達は、首都圏に出て生活する郷友の親睦会、東京飯豊会が誕生してめでたく45周年記念総会を迎えますことは、誠に慶ばしく存じます。

発足以来、偏に飯豊町長始め町民各位のご理解あるご指導、ご支援の賜と深く感謝する次第であります。又会長始め各役員皆様の郷土愛に燃え、奉仕の心で献身的に会の発展に努力した結果と存じ敬意を表すものです。

顧みてこの会の誕生のきっかけは飯豊町旧三ヶ村に分散していた中学校を椿駅近くに統合建築されることを知った私達が記念品を贈るべくその購入資金を出身者で首都圏居住者に募金をお願いし、100名近い方々から多額の寄付を寄せられ、昭和35年9月1日統合中学校落成祝賀式典に代表者が出席して教育用テレビを贈呈しました。

これを期に飯豊町出身者の「ふるさとを大切に」気持ち急が高まり、記念品発起者が中心となり飯豊会結成準備にとりかかり、昭和37年10月14日池袋において「東京飯豊会」がめでたく誕生しました。

その後毎年1月～3月の間に総会を実施してまいりましたが特に印象深く心に残り感謝しているの

は、昭和46年第10回総会に町、農協、竹田婦人部長、菊地青年部長による道具一式持参による餅つき大会で、以後10年間も継続実施していただき本会発展の基礎となったものです。現在も総会に餅を提供しているのはその名残と思います。

以来出席者も多く、町との交流も深まり総会のイベントには念仏踊り(小白川)、飯豊白竜太鼓、八幡神社獅子舞(松原)、念仏踊り(高峰)中の目八幡神社獅子舞(萩生)など披露され、昔懐かしい祭り風景に感涙したものでした。

又ふるさと出身の歌手浜博也氏(萩生)、山口省吾氏(松原)祭都氏(中津川)など出演していただきその美声に深く感動しました。その他多くの方々に出演していただきましたが省略させて頂き、又、45周年の歩みについては別ページをご覧下さい。

このように立派に成長した会員の皆さん!故郷遥かにして競争、激甚なる都会で働く同郷の私達こそ兄弟に優る愛情を持ってお互いに相寄り助け合ったならば、必ずや幸せに生活し、楽しい人生を送ることができる信じ、これから更にふるさと飯豊町と融和、協調し共に永遠の発展を願うてご挨拶と致します。

■東京飯豊会45周年を迎えて

樋口 昭二 (萩生出身)

東京飯豊会は今年で45周年を迎えました。私は、戦時中の昭和18年春、江東区亀戸の鉄工場に就職し、当時の夜間中学に通いました。そんな時、江戸川区で当時山形県人連合会の役員をしておられた後藤さんという方から一通の手紙を戴いたのです。「身体に気をつけて頑張るように!」との温情溢れるものでした。当時16歳でしたが、広い東京の中に山形県人会のあることをはじめて知り、懐かしくて身体が震えるほど感激しました。大切にしていたこの手紙も残念ながら空襲で他の持物と共に失ってしまいました。戦後、職を得て再上京、爾来、東京での生活50数年になりました。

東京飯豊会が発足した当時は、公私共に多忙な時期でしたが、舟山さんはじめ諸先輩の下で微力乍

らお手伝い出来たのも、この時の思いが心の支えになったからだと思います。以来、代々の会長はじめ役員の方々の尽力また会員皆様の協力により故郷との交流を深め会員名簿に依ると数千名の大世帯。

毎回の総会には趣向を凝らしたイベントを催し、2~300名の参加を見若い方や新しい方も増え盛大になっていることは真に喜ばしい限りです。

以前と違って故郷も新幹線の開通や電話の普及等で身近になりましたが昔変わらぬ山河、人情豊かな故郷があり、それに東京飯豊会を持つ私達は幸福と言わなければなりません。年に一度の集いではありますが同じ故郷の者同士が元気で顔を合わせ共通の話題に興じ明日への活力を養える飯豊会、お互い声を掛け合ってずっと続けていきたいものと願わずにはおられません。

東京飯豊会45年の歩み

1962(S37)～2006(H18)

回数	年度	会長名	会 場	特 記 事 項	参加人数
第 1 回	S 3 7	根本義五郎	池袋温泉	舟山繁太郎氏他 設立総会	(70 名)
第 2 回	S 3 8	(椿)	平和島温泉	第 1 回会員名簿作成	(60 名)
第 3 回	S 3 9		大塚角萬	前年を上回る参加者	(90 名)
第 4 回	S 4 0	井上養蔵	大塚ヤマニ	参加者 1 0 0 名超える	(110 名)
第 5 回	S 4 1	(高峰)	川崎	第 2 回会員名簿作成	(100 名)
第 6 回	S 4 2		水道橋	8 月の羽越水害に見舞金送る	(100 名)
第 7 回	S 4 3	宇津木孝輔	銀座	樋口助役出席	(130 名)
第 8 回	S 4 4	(萩生)	巢鴨	最高の参加者で大盛会で収める	(120 名)
第 9 回	S 4 5		大塚角萬	樋口町長、後藤中津川・飯豊会長出席	(120 名)
第 1 0 回	S 4 6		大塚角萬	農協婦人部、青年部による餅つき	(100 名)
第 1 1 回	S 4 7		大塚角萬	餅つき 恒例の行事となる	(120 名)
第 1 2 回	S 4 8		大塚角萬	町長始め町関係者 4 名参加 餅つき	(110 名)
第 1 3 回	S 4 9		大塚角萬	中津川飯豊会との交流、懇談会 餅つき	(170 名)
第 1 4 回	S 5 0		上野黒門	樋口町長、佐藤農協長、山形通信社参加 餅つき	(170 名)
第 1 5 回	S 5 1	中川佐助	上野黒門	新会長選出会の親睦を深める	(110 名)
第 1 6 回	S 5 2	(高峰)	大塚角萬	小松助役他町関係 2 名出席	(110 名)
第 1 7 回	S 5 3		大塚角萬	農協婦人部・青年部感謝状贈呈	(110 名)
第 1 8 回	S 5 4		大塚角萬	飯豊町役場新築祝に青銅花瓶贈呈	(120 名)
第 1 9 回	S 5 5		大塚角萬	白川ダム完成祝いに町の有志と懇親会	(110 名)
第 2 0 回	S 5 6	荒木昌一	大塚角萬	2 0 周年記念に金杯を配布	(140 名)
第 2 1 回	S 5 7	(萩生)	渋谷萬葉会館	樋口町長出席	(140 名)
第 2 2 回	S 5 8		文化センター	友好団体への案内状送付 ふる里文庫へ寄贈	(170 名)
第 2 3 回	S 5 9		文化センター	町当局より 町長他 1 6 名出席	(170 名)
第 2 4 回	S 6 0		文化センター	町当局より 渡部町長他 1 7 名出席	(160 名)
第 2 5 回	S 6 1		文化センター	2 5 周年記念手拭配布 郷土の物産販売 中地区獅子舞	(220 名)
第 2 6 回	S 6 2		文化センター	あがた ひろや出演	(240 名)
第 2 7 回	S 6 3		文化センター	小白川念仏踊り御一行 町政 3 0 周年に桜の記念樹	(210 名)
第 2 8 回	H 元 年		文化センター	飯豊太鼓出演	(240 名)
第 2 9 回	H 2		文化センター	民謡歌手 山口省吾出演 中津川飯豊会と合同開催	(230 名)
第 3 0 回	H 3		東方会館	創立 30 周年記念テレカ発行・桜を観るバスツアー (5 月)	(210 名)
第 3 1 回	H 4		文化センター	第 5 回 2400 名の名簿作成 中津川地区と合同開催	(180 名)
第 3 2 回	H 5		文化センター	ビンゴゲームの抽選で盛り上がる	(287 名)
第 3 3 回	H 6		文化センター	高峰念仏踊り披露	(190 名)
第 3 4 回	H 7		文化センター	中津川 「むかさり」披露	(190 名)
第 3 4 回	H 7		東方会館	阪神大震災救援募金へ	(190 名)
第 3 5 回	H 8		東方会館	3 5 周年記念 中の目獅子踊り披露	(214 名)
第 3 6 回	H 9		東方会館	ふる里訪問バス旅行 (5 月)	(217 名)
第 3 6 回	H 9	小笠原辰男	東方会館	津軽三味線と江戸芸かっぱれ舞踊披露	(217 名)
第 3 7 回	H 1 0	(添川)	東方会館	渡部町長病気療養に付き斎藤助役代行	(160 名)
第 3 8 回	H 1 1		東方会館	紅梅流日本舞踊 雪混じりの天気 千葉外房旅行 (9 月)	(190 名)
第 3 8 回	H 1 1		東方会館	バンド演奏 島田タダシとドネーションズショー	(190 名)
第 3 9 回	H 1 2	木村 武	東方会館	ふるさと民謡 プロ歌手によるコンサートショー	(200 名)
第 4 0 回	H 1 3	(萩生)	東方会館	40 周年記念行事 コラールド・めざみ コーラスショー	(220 名)
第 4 1 回	H 1 4		東方会館	狭山櫻の会和太鼓 お楽しみ抽選会	(220 名)
第 4 2 回	H 1 5	谷本亮司	東方会館	会報創刊「東京いいで会」 浜博也ショー	(210 名)
第 4 3 回	H 1 6	(椿)	H ランクウツ	会場変更 会報第 2 号発行 祭 都ショー	(210 名)
第 4 4 回	H 1 7		H ランクウツ	会報第 3 号発行 池田 進とグリーンアイズショー	(210 名)
第 4 5 回	H 1 8		H ランクウツ	会報第 4 号発行 椿 涌沼神社獅子舞披露	(210 名)

■失格会長のつぶやき

平成8年7月から同11年8月まで3年間、東京飯豊会会長の席を温めたことから、今回、第45周年記念会報に駄文を寄稿する機会を与えられた次第である。

私が会長を務めた3年間を振り返ると、冷汗百斗の想いであり、標題は私の現在の心境を素直に表現した心算である。当時荒木会長や舟山名誉会長他大勢の役員の方から強い推挙と、長時間に亘る説得を受け、会長としての確性に欠けることを自覚し辞退したのに、結果として、私の性格的なものが禍して引き受けたことで失格会長が誕生したのである。

会の運営面では、飯豊町との交流事業を柱にして、会員の親睦・互助共栄を図るべきことを十分承知しながら、主として経済面のネックから積極的に推進出来なかったことである。これでは失格会長と総括せざるを得ない。しかし私を支えてくれた当時の副会長、幹事長等役員の皆様の名誉のために、プラス面も少し記す事としたい。

小笠原 辰男 (添川出身)

まず後継会長の選任であるが私の轍を踏まない為、各地区から会員数に比例した選考委員を選出してもらい、これらの委員により会長候補を選出し、結果を尊重してもらおうという申し合わせで、最適任者木村会長が誕生したことである。

経済基盤の確立であるが、郷里飯豊町との交流事業に必要な経費は、荒木会長や舟山名誉会長他役員への寄付と地元の持ち出しで賄ってきたが、当分この方法は続くことは止むを得ないものの、総会時の会費とは別に、会員が年会費を納めるという案は当時から議論され、種は蒔かれていたのであるが2年程前から実行されたことは大変な決断であり、前進である、成功を祈る次第である。

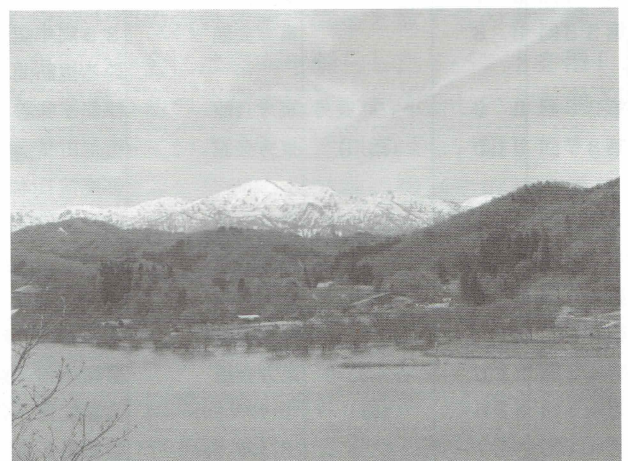
又、平成9年からの、原宿の「ふるさとプラザ」出店に一部の役員への献身的な協力によって成功裡に終わった事などである。

■45周年の歩み

飯豊会の発足は、昭和37年、舟山繁太郎最高顧問をはじめ、愛郷の思い溢れる人達の手で設立されて以来、諸先輩方のご尽力でここまで続けてこられたと思います。今では200名ぐらい会員で毎年盛り上がっております。年々若い年齢層の会員も多く参加され、町から出席される町長はじめ、関係者の方々のお話で田舎の様子を聞き、その中から、話題が広がり会員同士の話しもはづんでいて楽しそうです。又、つきたての餅を振舞うのも恒例になっており、それを楽しみに来られる方も多く見られます。そして毎年イベントがあり、町からの参加、又役員からのつながりで行うものもあり、歌・踊り等、いろいろな分野で楽しめるような企画を考えて実行されており、記念イベントの獅子舞が催された時には幼少の頃を思い出して胸がジーンとなり目頭が熱くなるものでした。今回の45周年では、町の関係者の方々には大

国分 秀高 (萩生出身)

変お世話になり、椿の涌沼神社の獅子舞が実行される運びとなりました。これからも、古里との交流の場として少しでもお役に立ちますように微力ではありますがお手伝いさせていただきますのでよろしく願います。又会員のたくさんの参加を心よりお待ちしております。



白河ダム湖畔より飯豊山を望む

飯豊町方言集

齋藤 ふみゑ (小白川出身) まとめ

今朝は朝はやっからとがいで飯豊会さ
きておごやおしょうしな一。
おはよ一さま こにちゃー おば一ん
おらえのえは、じっちゃ、ばっちゃ、
おっつあま、おかちゃ、あんにや、あねちゃ、
おどうど、いもうどと9人家族だ。
ごでとおがだ、なかえていいな。
わらしども、めちゃこくて、めんごいな。
ちよろからて、やがましいやろめら、
さどくてあいらしくないな。

むかさりみしえとごえ。
おぼごおぶって、こわいべな。
かなしがりのくしえに、いっちょまえだ。

なにそんぴんつかすべ。
のんべにごっぞうになっておしょうしな。
おらえさもござっとごえな。
ゆんべなあめふって、みちはびしゃだらけ。
ぶちょうほうなことして、しょしいごど。
きんまたげだり、こっぺつかすとされかまね
かみなりあめに、おにへして、そどさいぐな。
んだんだ、ほだごでな、おんつあれんな。
さなぶり、すけっからまっちょ。
しごだまえんばいつかしてしゃえっこすんな
まずすっぺらこいな。
なずきのてのごえとって、なだふげ。
にどえもにたげんどわるくなった。
いだましいげんどかんにえ。
まえどはよっぴてあるいだもんだ。
せまこいごさいねで、そっちゃえんげ。
おがったき、おしょってだいなした。
ねずぐどっぺしてけるな。
どんころ、あぐどでけつとばしでじょんだど

めちゃこいうちはえがった。
おがったらりらったい。
うまいものねげんどおたちしとごえ。
ごしゃぐなよ。
ほんまちなんぼある?
たっしゃで来年もござっとごえ

懐かしい場所

高峰・手ノ子・松原 地区

高 峰

発電所 (まだ吊り橋があります)
なめ坂 (洞穴が怖かった)
つぼふか (チョーナでひろこほり)

赤岩のお薬師様 (真綿を貰い受け)

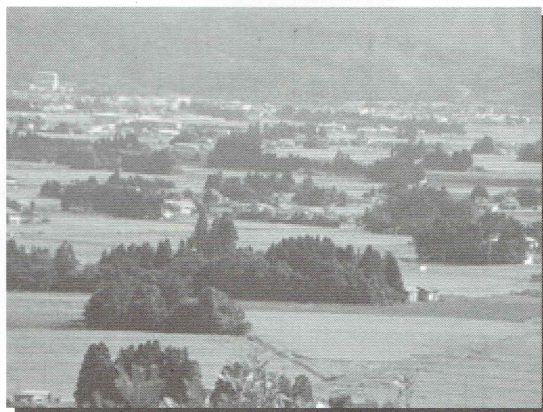
手の子

源居寺 (幼稚園のはしりが有りました)

大橋 (たもとから高峰へ新道開通)
ごぶちはげ (昔は暗くて怖かった)

松 原

お文殊様 (遠足、お祭りに行きました)
八幡神社 (8/15お祭り)
長瀬橋 (下の川で水遊び)



■四季の歌

岡山 悦子(旧姓 佐藤) (黒澤出身)

初秋の一日山形へ帰省しました。新幹線が米沢に入ると“あー帰ってきたんだー”と何故かほっとします。遠く連なる山々、高い青空、広々とした田園風景・・・そしておいしい空気や風・・・これらは私が高校を卒業して上京した30数年前と変わりません。子供が小さい頃の夏休み。実家に1週間位長居をし、近所の神社や白川でよく遊ばせて、もらいました。又田んぼや畑を駆け回ったり、墓参りや神社のお祭り、白川ダムで遊んだ事など、今でも時折思い出話に花を咲かせる事が有ります。こちらでは出来ない体験を沢山させ



広河原地区の旧家

ていただき、本当に有難い事とっております。娘や息子も田舎での思い出があるせいか「子供が出来たら緑の多い所で、のびのび育てたいね」と言っています。私の故郷は子供たちの故郷でもある様です。雪の降らない他県から飯豊町に嫁がれて数十年の方が言われました。雪国の人は、心が温かいね」と。雪に閉ざされる3~4ヶ月間、雪国の人たちは、じっと春の訪れを待ちます。そして雪が消え陽射しが暖かくなり草木が芽吹く早春の到来。母はこの季節が一番好きだと言っていました。吹雪の日もじっと耐えて待ったから、その感激・・・私よりも多く年を重ねた分、感激も大きいのでしょうか。胸に迫るものがあります。

山形で育った時間よりも3倍もの時間をこちらで過ごして来ましたが『人生の春夏秋冬』と言う事の意味が、多少理解できる様になった気がします。(少し生意気ですが) 私の好きな歌に『四季の歌』があります。何気なく口ずさんでいる時、浮かんで来るのは遠い山々、高い青空、そしておいしい空気や風・・・なぜか山形の風景なのです。

■足・脚に感謝を

渡部 義男 (中出身)

私たちの**"あし"**はいつ何処に行くにもこの重い体を支え文句ひとつ言わずお供をしてくれる。

目は景色や、美しいいろんな花を見たり、面白いテレビなど観賞する。**耳**は沢山の小鳥のさえずり、奏るを聴き、また音楽などで浮かれたり。**鼻**はいい匂いを嗅ぎ、食欲を誘ったりと---

口は美味しい物を腹一杯食べ過ぎたり、**あし**の事など一向に構わず飲食するから身体は肥ゆる。**顔**は身だしなみもあるが特に女は念入りにお化粧をし実力以上に見せようと懸命。

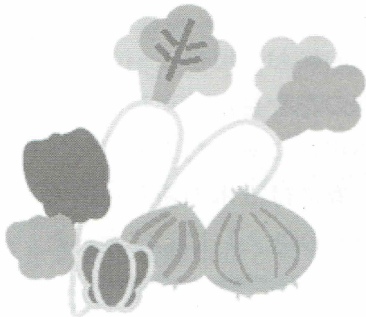
手は仕事は勿論のこと身の回りの事を手伝わされるが、しかし好きな人の手を握れる余禄があって上部はそれなりに皆楽しみがある。それに引き替え**あし**はどうでしょう、全くの逆で虐待といっても過言ではありません。

■現況報告

長岡 俊昭 (中出身)

昭和17年、飯豊町、中に生まれ育ちました。毎年、東京飯豊会に参加させて頂いて居りますので私の現況を少し書かせて頂きます。故郷の方からも町長さん始め大勢の皆さんが遠路はるばるお忙しい中出席して頂き又、町長さんのお話を伺い、我が故郷の流れが判りやすく拝聴させて頂きました。また地元の特産物も処狭しと並べて有り、故郷の味を堪能しました。昔の事が走馬灯の様に思い起こされ童心に戻った様な感じがします。

現在の私は、東京中央市場で野菜・果物の仲卸商を営んでいます。この業務に従事して早や40年の歳月が流れました。流れ行く、年月の早さに驚くばかりです。



この数年の間に日本の食生活の様変わりにも驚く事ばかりで、安心・安全な野菜・果物を消費者の皆さんに、という言葉がキーワードに成り、野菜・果物の生産状況から販売店の店頭には並べられるまでの履歴が消費者に判るように成りました。

スーパーマーケットでは、売り場に端末機があり商品をスキャンするだけで、生産地が何処で誰が作ったか、どんな肥料・農薬を何回使用したか迄、細かく誰でも瞬時に調べられ様に成りました。

農産物にも色々なバイオテクノロジーが惜しみなく注ぎ込まれ、季節商品と言う物が無くなりつつあります。一年中野菜・果物が消費者に提供出来る様に成りましたが、商品の季節感が無くなり少々淋しい気もします。近年海外からの野菜・果物も日本の消費者に安く大量に届く様に成り、これからの日本の農業はどの様になるのか少々心配も有ります。時代の変化は、我々の生活まで変えました。

一昔前は、何処の家庭でも夕方、奥さん・お母

さんが夕飯の買出しに商店街にある八百屋さん、魚屋さん、肉屋さん、スーパー等に行きながら夕飯のメニューを考え買い物をし、家族皆で食事を採るのが当たり前でした。近年は家族揃って食事する事も少なくなり、家庭で食べる物も大きく様変わりし自分で調理しないで直ぐに食べられる商品が24時間、何でも有る世の中になりました。

我々仲卸業にも色々な変化が有りました。市場法の改正による流通の変化。大型スーパー・量販店の進出等による、商店街・小売業の衰退による小売業者の廃業など。それにより、必然的に我々のお客様も小売業から大型スーパーマーケット・量販店さんになりました。

私は何時の時代でも、生活様式が変わっても人間が生きて行くのに必要な安心・安全な野菜・果物を大型スーパー・量販店さん及び小売業さんを通して消費者の皆様に提供出来る喜びを噛み締めながら仕事に従事していく所存です。

飯豊町を始めJAおきたまの農産物も数多く取り扱いさせて頂き、今後共生産者の方々の意を汲みながら、販売に努力して行きたいと思っています。

私共の同級生の方々も、大勢故郷にて色々な分野で活躍しています。同級会も二年に一度づつ故郷の方々と関東の方々と交互に行い、楽しい一時を過ごしています。

最後に東京飯豊会を始め、飯豊町の益々のご発展をご祈念申し上げます。



■ 回想

井上 啓助 (中津川出身)

昭和29年12月、生まれ故郷中津川を後にし、上京しました。近所の方々のあたたかい見送りをいただき、心の中でどんな事があっても頑張らねばと心に誓い上京しました。しかし当時の僕には決して目的を持っての事ではなく、只東京に行けばなんとかなるだろうと浅はかな考えでしたから、義兄には迷惑の掛けっぱなしでした。愚痴一つ言わず励ましてくれた義兄にはとても感謝しています。環境も言葉もすべてかみ合わず苦労はしたものの今振り返ってみるとなつかしく思えるようになりました。36年結婚を期に埼玉に小さな家を建て今は子供達も独立し夫婦二人きり趣味を生きし友人も多く楽しい毎日を送っています。

あらためてふるさとに感謝し時々帰郷し「やっぱりふるさとはいいな」と元気をもらって帰ります。また、我々の先輩が作ってくれた『ふるさと会』も昭和24年からずっと存続し、今も年1回の集まりも楽しみの一つです。ふるさとを想い互いに元気であることを確認し楽しい一日を過ごして帰ります。これからも人を思う心を大切にしていってあせらず頑張りたいと思うこの頃です。

健康寸言

渡部 義男 (中出身)

親から貰った大切な
 たった一つのこの体
 たった一度の人生を
 各駅停車でのんびりと
 慌てず急がず健康で
 楽しく満喫人生の旅

■ つぶやき

山水 まさ (添川出身)

* 言い合ふても親子や母子草

まさ

母子草とはなんて素適な名前だろう。それなのにいつも雑草として抜き取ってしまっていた。でも今年はちょっと違う。庭にこの草花のひとつかたまりを残したのである。二十センチ位に丈を伸ばして咲く母子草、その地味な姿が心を和ませてくれる。子育ての終わった今だからこそこの草花が気になるのかも知れない。

* 卵の花やくねに広がるくぐり穴

まさ

うの花のおう垣根に、と歌いながらも子供の頃に卵の花を見た覚えがない。垣根といえは生家(添川)にあった五木(ウギ)垣が思い出される。春には五木の新芽を摘んでおひたしや和え物(きりあえ)にして食べた。きりあえは特においしかった。この垣根も古木で隙間が出来ていたからよくそこを出入りしていたこともなつかしい。因みに埼玉では五木を未だ見たことがない。その代わりに卵の花は身近に見られる。

* どくだみや死装束の見つからぬ

まさ

今年もまたどくだみが生えてきた。取っても取り尽くせない強い草花である。薬草でもあり白い花の咲き揃う様はなかなか美しい。匂いは薬草らしく少々きつい嫌いではない。今年もまた庭のあちこちに生え、咲き揃った白い花の様子を見たとき、ふと人の死を思った。私自身はどんな姿であの世へ旅立つのか、気になってもわかるはずもない。只その日の為に今日を精いっぱい生きたいのである。日々の暮らしの中で見つけたことや気になったことに心を寄せ、つぶやくように十七音に表現する。それが私の俳句であり楽しみでもある。

山村留学その後…

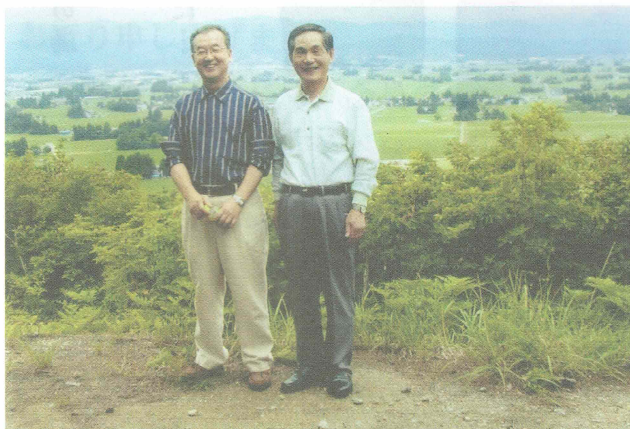
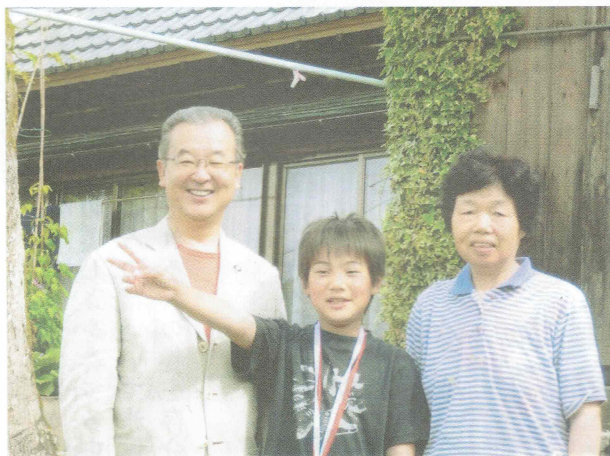
手塚 久雄 (萩生出身)

平成16年の夏、飯豊町初の試みで開校された「中津川山村留学」、豊かな自然に育まれた環境で元気に飛び回る都会の子供達、送り出した家庭から予想を越えた好反響に昨年の夏も川口市、桶川市から30名の参加があり、賑わいました。

この実績が、長期留学(1年間)へと結びつき、都会から3名の児童が地元の学校に通いながら貴重な体験をしました。今更に町皆様のご苦労ぶりと、温かい受け入れに、改めて感謝申しあげたい。又昨年の春、私の住む桶川市から岩崎市長とそのスタッフが町を訪れ、斎藤町長らの心温まる歓迎を受け初の「わらび刈り」等を体験、一段と友好をと深めたようでした。この山村留学がきっかけで、桶川市で毎年秋に開催される「桶川全国ふるさと祭り」にも町から大きな芋煮鍋と飯豊の特産品を揃え参加するまでに至っており、近い将来、友好姉妹都市関係まで発展できればと期待しております。一方で中津川地区の少子化問題も深刻な状況にあり、山村留学の継続が少しでもお力になればと願っております。

写真は長期留学の桶川出身、蜂谷君と里親の五十嵐さん、岩崎市長。

田園散居集落を背景に岩崎市長と斎藤町長です。



ダムのふるさとを離れて

山口 和吉 (中津川出身)

この写真は山口家400年に亘る歴史が映っております。実家として子孫に伝えるべく大切に保存しております。撮影時期は昭和44年の出穂期です。正面の家屋は我が家で墓地は先祖伝来のものです。田んぼは私の自慢の田んぼです。(昭和36年飯豊町で多収穫競技会第一位受賞)あれから35年の月日が流れました。埼玉県さいたま市中央区(当時与野市)に移転し、株式会社やまがたを設立し、現在は長男に社長をゆずり地域の組織に入って、少しでも世話になった皆様に恩返しをしようと頑張っています。仕事はボランティア風カラオケスナックのオーナーとして、年金生活者の笑顔で唄う姿に生甲斐を感じている毎日です。



原稿募集

総会参加感想文・会運営発展に対するアイデア
・身辺雑記・文芸作品・思い出・会報読後感想文・エッセイ等、原稿用紙に800字以内
都合により訂正・削除・加筆等ございます。

●お問合せ先・送付先

広報部長 高橋正孝

〒261-0011千葉市美浜区真砂1-11-12-105

電話/FAX 043-278-5229

編集後記

今冬は近年にない大雪、各地で雪の被害が発生しております。故郷飯豊の地は如何でしたでしょうか、誌上にてお見舞い申し上げます。当地にも雪が降り積もる中で紙面作りを致しました。この度、会報4号は東京飯豊会発足45周年記念の特集と成りました。諸先輩からはその歩み、町長さんはじめ町の関係者皆様からお祝いの言葉を戴き有難うございました。会員皆様からも多くの寄稿を頂きました。故郷と係わり、東京を中心としての就職そして現在の生活、飯豊なまりで綴ったしゃべり言葉など盛沢山の内容になりました。お読み頂ければ編集に携った者として喜びとするものです。

新野 記

＜秘境温泉 神秘の湯＞

広河原間欠泉 湯の華



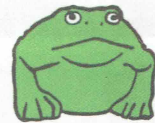
間欠泉の湯を浴びながら入れる炭酸ガス自噴の露天風呂はここだけ。飯豊町最南端、福島県境の飯豊連山と霊峰杵峰に挟まれぶなの、林に囲まれた谷あいには自噴する間欠泉です。積雪期冬季休業します。営業期間・宿泊予約・その他は、お問い合わせ下さい。

所在地：飯豊町大字広河原字湯ノ沢 電話/FAX 0238-77-2529 鈴木 義則
アクセス*東北道山形蔵王ICより約2時間JR手ノ子駅より車で約1時間白川ダムの十四郷荘より南下し
広河原地区へ、途中岐点を東沢方面へ曲がり7km



がまの湯

山形県いで湯と味覚の宿



静かな山あいの中にたたずむがまの湯
飯豊山、四季の美しさを奏でる中、
心安らぐまごころの宿いいで旅館
湯・味・宴、それぞれの趣を存分に…

山形県 いで湯と味覚の宿 東北のガマ がまの湯温泉

いいで旅館

〒999-0604 山形県西置賜郡飯豊町大字椿1194

TEL.0238-72-3706(代)

FAX.0238-72-3709

URL <http://www.q-pop.ne.jp/gama/>
E-mail gamanoyu@jan.ne.jp



がま足の湯



山形初
旨酒どぶろく!
(期間限定11月～5月末)